狭（むじな）川（静岡県）

福田　航大

私が幼少時代をすごした浜松市には、遠州鉄道に沿って流れる「狭（むじな）川」とよばれる川が存在します。狭川との思い出は、放課後になると近くに住む子供たちと毎日のように遊んだ綺麗な記憶ばかりです。しかし、環境汚染や開発が進むにつれて、思い出溢れる狭川は現在では魚の死骸で溢れています。その土地で農業を営む私の祖父は、６０年以上も前の狭川を知っています。私の祖父に聞いても、狭川は「変わってしまった」ということです。特に３０年前と比べると、今の狭川は昔とは全く別の川に見えてしまうようです。３０年前の狭川に何があったの、と祖父に聞くと、「３０年前のあの出来事が…」と言ってなかなか口を開こうとはしません。あの３０年前の出来事とは何のことなのでしょうか。この３０年間で狭川には一体何が起きたのでしょうか。私は地域に住む住民に聞き込みをして、その当時と現在の比較を行なってみました。

まず、私が小学校１年生であった頃の様子を紹介しようと思います。川の水はまるで六甲の天然水のように綺麗でした。私が１年生であった頃は学校の帰り、決まって狭川に遊びにいきました。家の周りには田んぼ、畑、そしてドブばかりで遊ぶ場所がほとんどありませんでした。そういった環境であったため、私たちにとって狭川は唯一の遊び場所と言っても過言ではなかったのです。夏の暑い日には、汗を流しにいこうと言って学校のプールではなく狭川に向かいました。少し喉が渇いたと言っては平気で狭川の水を飲んでいました。毎日遊びに行っても飽きない。毎日遊びに行っても狭川に行けば新しい何かに出会える、新しい発見がある、私たちにとって狭川はそんな場所でした。というのも、狭川にはとてもたくさんの生物がひしめきあって生息していたのです。３０センチ以上の大きなフナが泳ぎ、川の底を注意して見ると真っ赤なザリガニが流

れまいと川底にへばりついているではありませんか。橋の上から眺めても、大きな魚が最低でも１０匹以上泳いでいる様子が確認できました。また、雨の多く降った翌日には、私たちの間では川の「魔物」として恐れられたナマズが何かを狙っているかのように蠢いているではありませんか。そういった多種多様な生物たちの中でも、ひときわ神秘的なオーラを放っていたのがカメでした。カメは私たちの間では川の「神様」として、川の「守護神」として、絶対不動の地位におかれていました。そのため、狢川にはカメは一匹しか存在しないはずであると考えていました。しかしある日、学校帰りにいつものように友達と狢川に出かけると私たちはカメの行列に出くわしてしまったのです。神ならぬカメを二匹見つけてしまったのです。私たちは混乱し、どちらかが偽者でどちらかが本物であると思い、二匹の亀に徒競走をさせその勝負に勝ったほうが本物のカメだと決めました。私の友人の兄にカメのことを聞くと、カメを捕まえて川に返さなかった子供がその昔、不幸な事故に遭い死んでしまったという話を聞かされました。私たちは我が身が震えるほどの恐怖を感じ、最終的にはその二匹とも狢川に返したのでした。つまり私にとって狢川はただの遊び場ではなく、自然と生で触れ合える場でもあったのです。

３０年前の狢川はどうであったかというと、私の知る狢川とは桁違いに綺麗な川であったようです。そもそも、なぜ狢川という名前がついたかというと、狢とよばれる鳥が周りに多く生息していたからだそうです。また、子供たちの遊び場として様々な生物が生息していただけでなく、そこは地域の農家の人たちにとって必要不可欠な水資源であったのです。前述の通り、その地域には水田や畑がたくさんあります。狢川の水を直接引いてきて、農業に役立てていたそうです。またその当時は川の周りに堤防がなく、子供の身の丈ほどの草が生い茂っていたのです。そのため、月に一回は地域の人たちが集まり狢川の周りの草を刈るイベントが存在しました。狢川は、水田に必要な水としてだけでなくさらには地域住民の交流の場でもあったのです。そう、あの３０年前の出来事が起こるまでは…

浜松市、静岡県、東海地方、この地域では何十年も前からある大きな地震が来ると言われていました。そうです、東海大地震です。３０年前、その東海大地震が来ると言われてから地域の人たちは狢川の周りの草を刈らずに済むようになりました。そうです、３０年前、東海大地震時の川の氾濫を防ぐためという理由で、狢川にはコンクリートの堤防ができてしまったのです。加えてコンクリートの堤防の上には鉄筋の橋が架けられました。そしてその当時から近くの工場の排水が垂れ込むようになり、狢川の環境は恐ろしいスピードで悪化していきました。狢川の周りはコンクリートで埋められ、川の水は透き通るよう

な純度が失われ黒く濁っていきました。およそ１５年前も、私が小学校１年生であった頃も、３０年前と比べるとかなり汚くなっていたようです。恐ろしいことに、私が六甲の天然水と例えた狢川の水も実は工業用水で汚染されていたのです。しかし、現在の狢川の様子はその比ではないくらい汚くなっていました。もう、狢川の狢を見ることはありません。橋の上から見えた巨大なフナたちも姿を消しました。赤いザリガニも今では川が濁っているため存在も確認できません。そしてあのカメは、まだいるのでしょうか。

狢川についてのweb-siteはありませんが、誰もが狢川をまた綺麗な川に戻したいと考えていると思います。少なくとも私は、私が幼少時代を過ごした狢川に戻ってほしいと切に願っています。現在では狢川で遊ぶ子供たちを一切見かけません。理由は狢川が汚くなっただけとは言い切れませんが、狢川は私が何にも変えられないほど楽しいと感じた遊び場です。今の子供たちがその楽しさを味わえないことがとても悲しい。今の子供たちにもその楽しさを味わってほしい。狢川よ、もう一度…